

JIA NAGANO. KEN CLUB

Vol.80

2008

12.20

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/jia-naga@jeans.ocn.ne.jp>



地域サミット



冬の恒例行事



第2回幹事会

『真の建築家よ、頑張れ！』

高橋 重徳

サブプライムローンの破綻に端を発した世界の金融恐慌で国内の景気の後退はより深まっています。現在私達を取り巻く建設不動産を中心に倒産やリストラ等が相次ぎ、産業全体にも広がって来ており、一部では1929年の世界大恐慌に次ぐ100年に一度の危機であるとも囁かれている状況です。また暫くは経済の回復は望めないとも言われているのです。私達は今までにも幾多の苦難を乗り越えてきましたが、これまでに経験したことの無い厳しい状況に置かれていると言つていいでしょう。今後の建設投資の減少は明らかです。こうした社会状況下でもどうにかして生き残らなければなりません。従来の手法や考え方を見直し、自らの仕事創出方法で対応することが必務でしょう。それには専門家同士の協力体制の構築や適正価格での受注を図る為の努力と実践も不可欠です。消費者にとって真の「安全で安心な住環境」を提供する重要な役割を果たすためにです。

私達は今こそ社会に向かって

- この状況で建設をする意味は？
- どの様な建築(住宅)にするべきか？
- どの様な建設体制にするべきか？
- 「設計・監理」の役割と責任と報酬の関係は？

● クライアント自身の責任は何か？

…など

企画・計画や基本設計の内容を中心とした疑問と質問に誠実で的確に答えるべきです。そして企画・計画や基本設計の重要性をアピールするべきです。

建設には様々な人が関わり、完成までの工程も複雑です。それだけに責任が分散されやすく、ミスや不正も見えにくいことがあります。しかし消費者にとって住まいの問題は暮らしの根幹に関わる問題であり、多くの人にとって一生で一番大切な事業です。従って「安心、安全は何よりも最優先しなくてはならない」ことです。その為には設計報酬無償等の慣習はあってはならないのです。そうした悪習は結果的に消費者を裏切る形となり、消費者軽視の姿勢であり許されません。無償ですることは要するに価格の不当表示の仕事をしているということです。どこかで不誠実なことをやらない限りタダということは有り得ないことです。消費者にとっての裏切り行為であり、そして私達自身を否定することになるのです。消費者にも誠意をもってこのことを知らせるべきと思います。

私達は真実・正直・誠実であることに改めて意識し、努力するべきです。

ASJ建築家紹介システムから何を学ぶのか？

赤羽 吉人

11月7日に関東甲信越支部地域サミットが長野で開かれ、当会からの地域会報告の中でASJ建築家紹介システム問題を取り上げました。出席者に住宅中心の設計者が少なかったからかもしれません、皆さんそれほど事前知識はお持ちでなく一様に強い反応を示してくれました。群馬地域会の長井代表からも群馬でもターゲットにされているとの示唆があり、一緒に考えていこうとの強い意向が寄せられました。

これについてはJIAとASJとのスポンサー関係も絡んでおり本部設計環境改善委員会で取り上げるべき問題として今後も支部を通じて働きかけていきます。

ASJ問題の本質は、施主と設計者との相対関係に紹介組織や工務店が強く関わっていることと、設計の初期段階で基本設計を殆ど無償で頼めるうたっている点で、これらは結果的に消費者(施主)の利益につながらないということをJIA自らのメッセージとして社会に訴えていくことが重要であると思われます。

当会では地域社会に対する情報発信を今年度の事業方針の骨格に据えて活動してきましたが、この問題もその一環として取り組んでいくべきだと思います。

建築家と出会うために何が必要か。建築家に気軽に仕事を頼むには予めどんな心構えがいるのか、とりあえずいくら払えばいいの

か。等々設計事務所ってそんなに敷居が高くはないのに、と思うのに消費者には伝わっていない。このあたりのジレンマを解消するにはいろいろな切り口を持った情報発信が重要であると思います。

皆さんもどんな広報活動を行ったら我々の敷居が高くないことを伝えられると思いますか。住宅を建てたいと考える潜在的なクライアントにどんな情報が届いたら我々の事務所のドアをたたいてくれるとお考えですか。私達の地域密着活動は本当に地に足がついていますか。

最後はクライアントにどれだけの満足感を与えられ、結果としてよい建築が残せるかが勝負の分かれ目です。そのために必要とあれば、JIA長野県クラブ版建築家紹介システムを作ってもいいではありませんか。地域に凝り固まる必要はありませんが、地域の実情を無視して設計しようとする建築家は長野県で仕事をしていくというのも実感です。

そう、私達は「信州の建築家」なんですから。



「UIA2011東京大会」への誘い

山口 康憲

3年に一度開催されているUIA(世界建築家連合)大会は今年イタリアのトリノで7月に開催され、いよいよ東京大会開催まであと3年となりました。

3年前のイスタンブル大会で6年後の開催都市が東京に決まり、その後2006年にUIA2011東京大会日本組織委員会(JOB)が発足し、準備を進めてきました。「環境問題」や「高齢化社会」等現在我々が抱える問題を21世紀後半を見据え産業界や市民社会が一丸となって未来社会をデザインする、その共同活動のスタートラインとするために市民社会に我々の使命を伝える契機とし、併せて近未来の建築・都市・環境のあり方を日本の建築界から国際社会に発信するという目的で、東京大会のテーマは「DESIGN2050」と決まりました。ここには、唯一の建築家の国

際大会であるUIA大会を建築界が一体となって開催することで、国際標準となる資格制度確立に向けた再出発点にしたいという願いもあるし、アジアを初めとする世界に向けて地方も含めた日本の文化を発信する大きな機会になると捉えています。

この2年間はJOBの活動をJIAの本部・支部が支えてきましたが、これからは我々地域会も自分たちで地元の建築文化を世界の建築家に発信できるようなプログラムを立案し、我が国の建築設計界始まって以来の一大行事に積極的に参加する段階に来たようです。「環境」や「高齢化社会」の問題を我々自身で考え地域社会に発信する契機にもしたいと思います。2011年9月25日から10月1日までの7日間に亘って開催されるUIA東京大会に一人でも多くの皆さんの参加をお願いします。

JIA東北大会 報告

菊池 弘之

今年は東北大会 仙台と聞いて遠いと言えば、だけど行けなくもないか…おー、ずんだ餅・牛タンが見えるなーと不純な動機で行って参りました。

ご報告と言いますか、各先生方の、名言をお伝えします。

一人目は法政大学の五十嵐教授(弁護士)『建築士と建築家と登録建築家またオープン化による建築家資格制度の名称など色々皆さん仰いますが、一体、何がどう違うのか建築を知らない人にも私にも、さっぱり解りません、名称を、自己満足でやってらっしゃるのか?…』

二人目は長野にも公演に来て頂いた高橋謙一先生『この國の

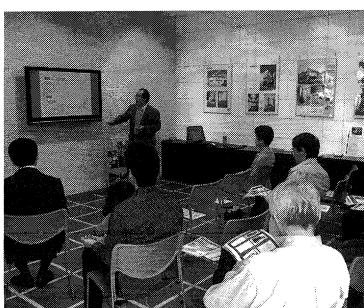
行政の法律は、役人に被害が行かないように作成するんです。いい建築を創ろうなんてこれっぽっちも思っちゃいない。又建築を見る目なんて無いんですよ。』

最後に出江会長『京都っていうところは、皆さんご存知の通りお寺ばかりなんです。

どうゆう事かと言うと、死者の町なんです。ですからここで使う素材・色というのは、自然と選ばれてくるんです。』まだまだ話が続くところを、知事の次の予定のため、バッサリ終了させられ、出江ファンの私としては、残念でした。

来年は京都『京』の佇まい・はんなりとだそうです。

外部セミナー報告「INAX 家づくりセミナー」「JAグリーン長野 家づくり講座」



10月12日 INAX長野ショールームで「信州の建築家とつくる家づくりセミナー」が開かれました。テーマは介護の視点を取り入れた家づくり・リフォーム。講師は丸山幸弘氏。車いすを実際に動かし、介護する側・される側の実演や丸山さん

が設計された実例を取り上げ、きめ細かな配慮を紹介しました。10月25日 JAグリーン長野グリーンパレスにて「快適で安心して暮らしていくための家づくり講座」が開かれました。シリーズの今年度の締めくくりで盛りだくさんのテーマを3人の講師がそれぞれ担当する講座になりました。住宅の性能等について“断熱から健康、安全、素材まで考える”勝山敏雄氏。住宅をつくる方法“設計から完成までを考える”片倉隆幸氏。信州の建築家と作る家“信州の風土に合った家づくりを考える”倉橋英太郎氏。それぞれのテーマに対し、充実した内容の講座でした。

まち並みウォッチング 松代

西沢 広智

11月8日に行われたまち並みウォッチング 松代は、前日長野で行われた地域サミットIN長野と連携して開催されました。建築他団体等の催しと重なった事もあり長野地域会からの参加は少なめでしたが、地域サミット参加者及び群馬地域会のみなさんに参加していただき、長野地域会以外のJIAメンバーの方々との交流もでき有意義な時を過ごすことが出来ました。

前日開催された地域サミット夜の部の酔いまだ覚めやらずといった中、真田宝物館の前に全員集合。3班に分かれ、「松代文化ボランティアの会」のガイドに説明していただきながら、旧横田家住居、像山地下壕、山寺常山邸、像山記念館、旧白井家表門、松代文武学校、



真田邸(改修工事中)、松代城跡等、秋深まる松代のまちを見学して廻りました。松代の特徴である泉水路、文武学校の剛健な木組、改修工事中の真田邸の耐震改修工法等について、それぞれの思いや意見が活発に交わされました。

松代は5年前にもまち並みウォッチングを行ったことがあります、この時には、まだ立ち上がったばかりのNPOのまちづくり法人「夢空間 松代のまちと心を育てる会」の香山さんにまちづくりの動きをお話いただきました。今回は、「松代文化ボランティアの会」のみなさんに、松代の代表的な観光歴史的建物を中心に案内していただきましたが、見学中、我々以外にも大勢のボ

ランティアガイドの説明を受ける方々の姿を拝見しました。平成15年から松代の文化財を生涯活動や趣味の集まりの舞台として活用しながら交流を通じて、松代の魅力を全国に発信していく「エコールド・松代」いう運動も定着し、さまざまなイベントが開催されるようになる等、住民の努力が少しづつ花開いている姿を感じた一日でした。

講習会「住宅瑕疵担保履行法及び住宅瑕疵担保責任保険について」

山田 健一郎

12月6日、安曇野「新庄」にて冬の恒例行事が行われました。今回の講習会では、日本住宅保証検査機構の方が説明をして下さいました。

この法律は、住宅の構造体や屋根・外壁などについて、10年間の瑕疵担保期間を設けて、直接には建設業者や宅建業者の施工瑕疵に対して、課せられる責任ですが、我々設計者にはどんな影響があるのでしょうか。

設計の内容に関しては、基本的には建築基準法に準拠していれば、責任保険の対象とするように国土交通省から保険業者に指導があったようです。しかし、特にトラブルの8割にのぼる「雨漏り」に関しては建築基準法に細かな定めが無く、今まででは、保険会社が独自に、雨漏りを起こさないディテールの指針をつくり、それに当たる事例に関しては、保険の免責対象としてきたようですが、国土交通省の「建築基準法に準拠していれば」の一言で、彼らも対応に苦慮しているようでした。保険会社が独自の仕様書

や指針を持てないだけに、雨漏りの原因に関しては、常に協議の対象となり、設計瑕疵と判断する事例も多くなるでしょう。外壁やサッシュの納まりに関しても同様です。

施工に関して厳しい担保責任が課せられた今回の法律により、我々も設計の内容と瑕疵責任を、より厳しく問われる事になるのは間違いないありません。

設計・デザイン・確かなディテール…それらをより高いレベルで実現する責任を、ひしひしと感じました。



「信州の建築家とつくる家」第6集に向けて

清水 国寿

待ちに待った「信州の建築家とつくる家」第5集が出版されました。赤羽会長の下、常設の出版委員会となってはじめての成果品です。今回もかなりタイトなスケジュールにもかかわらず会員はじめ関係者の努力により年末の出版にこぎつけることができました。特集や個人ページのフォーマット、オプションなどの要領も定型化し、より良いものとなりました。賛助会のページも会社の業務内容が分りやすくなり、第4集以降のシリーズ化の内容がそろい始めました。

全体を見回してみれば、版を重ねるごとに作品自体のレベルの向上と共に、各ページの表現方法もより洗練されたものになっており、出版に参加することで切磋琢磨しあい個人と会全体のレベル向上という目的は間違なく達成されつつあります。

個々の作品には、狭隘な敷地にアクロバット的な空間構成、これでもかの収納グランプリ的な都市型建築は見当たりません。ゆったりとおおらかに信州の気候と風土が反映された作品が多く、民

家再生もあり無意識のうちに信州らしさが滲み出た内容となっています。こうしてみると、やはり日常の仕事に精一杯ベストを尽くしていくことが本のレベル向上や信州らしさの表現につながる基本であることがよくわかります。

これで販売部数が伸びれば言うことなしですが、課題もいくつか残っています。私のように一人の事務所で仕事の数も少ない者にとっては、毎年の会費と出版費用の2つの負担はこたえます。全員参加の方針でも、同一事務所の複数会員や個人の事情などを考慮すると第5集ぐらいの参加人数が良いところなのでしょうか。個人の費用負担と参加人数は根源的課題です。そして版を重ねるごとに在庫が増していくリスクは常に付いて回ります。

何はともあれ、さらに美しい第6集に向けて日々の仕事に励もうではありませんか。ご協力いただいた会員、賛助会員の皆様、そして難しい注文に的確に答えてくださったオフィスエムの寺島さん、倉石さんありがとうございました。

賛助会だより

次世代型機能性触媒について

三商株式会社 高木 大治

今回、初めて技術交流会に参加させていただきました。炭平コーポレーションの原山様を通じて「ラジカルダイヤコート」の紹介を出来たことに心より感謝しております。我々はコンクリート製品を中心とした建設諸資材を取り扱う商社として生業を得ていますが、ここでは自社で開発し、製品化できたものをご説明させていただきました。キーワードは“環境浄化”“ダイヤモンド触媒”“防汚塗材”“無機被膜”というようなものになりますが、安価で施工が容易なこと、対象基材が豊富なことを強くアピールしたいと思います。最も訴求したい事は『維持・管理しようとする人の手間を大きく低減すること』です。自浄作用の優れた光触媒の様な機能はありませんが、基本的に汚れにくく、汚れても簡単に回復しやすい。そういうものを開発しました。近年、道路構造物や供用施設のアセットマネジメント推進などとよく耳にするようになりましたが、維持・管理や

ライフサイクルコストを見越した技術は後回しになりがちです。今回ご紹介した製品は、現場ではむしろ“過分なもの”として忌避される部類の材料になります。(維持・管理するものの立場で開発したのですから) 諸先生方においては、既に様々な角度からこれらに対処すべく工夫され洗練された技術・工法でもって対応されてきたであろう事は明らかですが、そこに私どもの製品を融合してみていただけませんか? 先生方が築いた“根拠”を、より確かなものに位置づけるようなものになるのでは!? というような確信じみた思いで駆けつけました。少しばかり大袈裟になってしましましたが、土木業界から踏み入ったためか、開発側としては刺激が足りません。現場で起こりうる“無理難題”を克服してこそ広がる物があると信じています。そこでひとつ、諸先生方の厳しいご意見を広く頂戴し、より一層進化できれば幸いに思います。

技術交流会 発表を終えて

YKKAP(株)長野支店 野阪 大輔

先日は安曇野での技術交流会に参加させて頂きまして、誠にありがとうございました。

貴重なお時間の中、2テーマ『光と風を生かした住まい提案』、『カーテンウォールの防耐火仕様について』講演させて頂きました。2テーマともに皆様が大変興味深く聴いていた姿を見て、内心ほっとしておりました。

前半のテーマは、どちらかと言うと住宅設計寄りで、日頃皆様が当然設計上お考えのある部分を、より具体的に、論理的にご説明、ご提案が出来たのではないかと思っております。又、後半のビル設計向けのテーマも、法規上の問題、現状の業界の動向などお伝えできたのではないかと思っております。時間

の限りもあり、ご説明の足らない部分もあったかと思います。ご不明なことはぜひ個別にお問合せ頂けますよう、よろしくお願い致します。

それから、引き続きその後の忘年会にも社員4名で参加させて頂きました。皆様のパワーに圧倒されながらも、大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。赤羽会長にお伺いした、「この会は年齢、性別問わず、開けた会なんです」という言葉が良くわかりました。

また、このような機会があればぜひ参加させて頂きたいと思っております。

■第3回「建築祭」を開催いたします。

ホテルから飛び出し市民に開かれた「建築祭」は3回を迎えます。先輩方の築き上げた文化・教育活動にご賛同頂き本年度は松本市美術館との共同開催となりました。見つめよう!暮らしの場「まち・ひと・建築」を共通テーマに、双方が独自性を保つつ柔軟性と自主性を發揮・協力して、地域環境の質の向上に資する啓発・普及事業を実施いたします。内容も充実しておりますので奮ってご参加ください。

- 共通テーマ:見つめよう!暮らしの場「まち・ひと・建築」 ■会場:松本市美術館
くらしの空間セミナー 担当 松本市美術館
・2月 7日(土)空間セミナー(1) 講師:富田 玲子氏(建築家 象設計集団)
・2月 28日(土)空間セミナー(2) 講師:一ノ瀬 彩氏(人場研/筑波大貝島研究室)
・3月 21日(土)建築見学バスツアー(県内)定員25名
- 第3回建築祭 担当 JIA長野県クラブ
・2月 21日(土)~22日(日) 会員作品展
・2月 21日(土) 第18回長野県学生卒業設計コンクール、公開審査及び表彰式 交流会
・2月 22日(日) 会員作品発表会
- 第17回文化講演会 講師:高宮 真介氏(建築家 株計画・設計工房)

■保存問題神奈川大会について

2009年2月28日(土曜日)・3月1日(日曜日)に神奈川県横須賀で保存問題神奈川大会を開催します。2/28は横須賀周辺(東京湾岸)の近代化遺産を見学します。横須賀港(軍港)巡り、横須賀工場(モダニズム建築群)、旧横須賀鎮守府長官官舎(設計:桜井小太郎)見学、地域サミット、懇親会、その後、夜の横須賀を堪能できます。3/1は浦賀ドック(軍艦修理施設)見学、浦賀町散策(町屋、蔵の町)昼食は黒船シチューor海軍カレーがお勧め!午後はシンポジウム「近代化遺産を市民にひらく」をテーマに開催します。横須賀独特の近代化遺産(軍事施設等)が残る地域は長野県ではあまり身近では経験できない問題が山積している様子です。昨今、近代建築が耐震問題や収益性だけで判断され無闇に破壊されている現実の中で、何か「保存」という大切な意味を見出す糸口になるのではと期待します。是非、多くの会員の方に参加していただきたいと思います。特にCPDの単位取得が不足している方は積極的に参加して下さることを期待します。

編集後記

2008年、皆さんはどんな年でしたか?私にとっては例年に無く様々な出来事があった年でした。そのような年回りなのかもしませんし、後年振り返って転機となる時のようにも思います。一方で、そのような個人的な事情とは別に、私達を取り巻く状況も大きく変化しています。今号にある出版事業や講習会への講師派遣などを見ても社会との関わりかたも様変わりしつつあるように思います。そんな中でも自分なりの立ち位置をしっかりと見定めて活動を続けていきたいと思います。広報副委員長 広瀬 肇

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／勝山敏雄 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
発行人／赤羽吉人 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp